三依地区全体を巻き込んでのサロン

三依地区

背景

栃木県

栃木市地域おこし協力隊

コミュニティデザイン学科 建築都市デザイン学科

磯田

精神的要因

社会基盤デザイン学科 鈴木

2目的

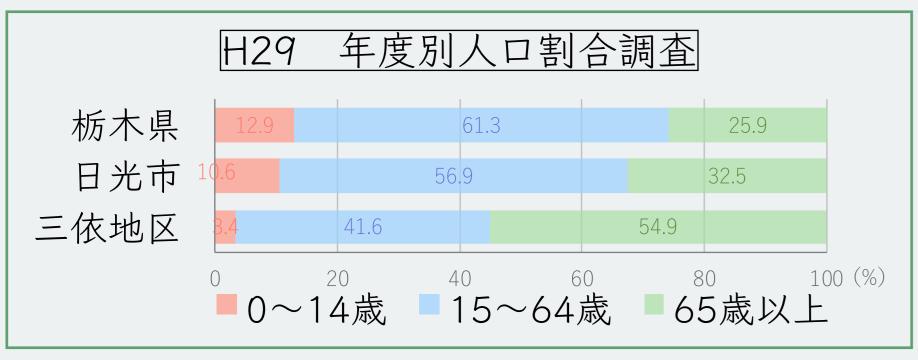
三依地区

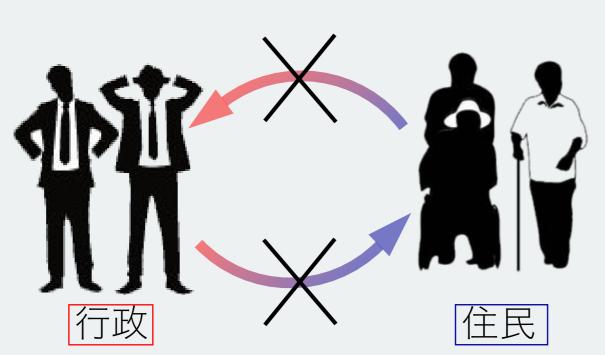
(旧藤原町一部)

旧栗山村 旧藤原町 上三依地区 芹沢地区 旧日光市 独鈷沢地区 五十里地区

三依地区は日光市の北部と福島県の県境にある。6つの集落から成り、 これらの地区間距離が離れているため、地区どうしの付き合いが困難である。

日光市





炭焼き産業が盛んだった頃は多くの人が暮らしていた。しかし、時代が変わ るにつれ衰退し、現在の人口は363人(H29)高齢化率は約54%と、超高齢社 会化が進む限界集落地域の一つ。また、行政と住民の間に温度差があり、プロ ジェクトの進行が困難な状況にある。

物理的要因

地区間の距離が離れている

活力の低下

高齢化により活動が難しい 近所に人が居ないから寂しい 消滅の危機感を持っていない 自動車の運転が難しい

三依の人に愛着がある 三依の土地に愛着がある 自分の家・土地を守りたい

佛川

-Negative

Positive



地区間・地区どうしの交流ができる土台を作る為 現在行われているサロン活動の活性化を図る

活用

北條

黒田

1st ヒアリング調査

期間:4月~7月

対象;横川地区自治会長・自治副会長/芹沢地区職人

2nd ヒアリング調査・アンケート調査

期間;8月~10月

○ヒアリング調査 対象;三依地区内で商店・渓流釣り場経営者

地域おこし協力隊

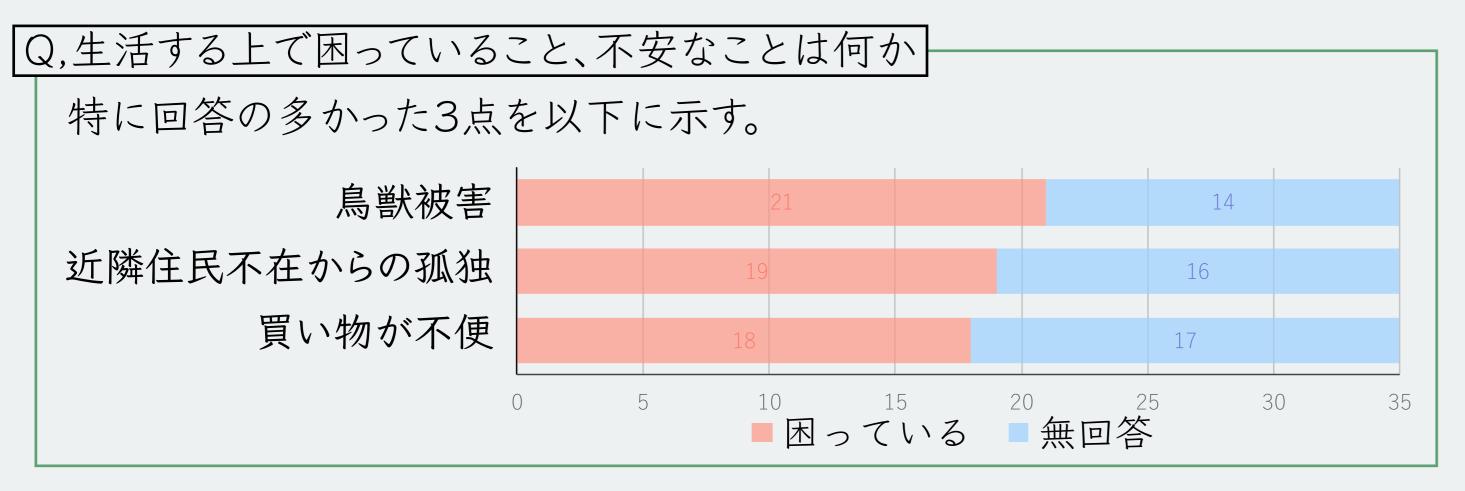
○アンケート調査 対象;三依地区住民

○質問項目 地域活性化や地域内交流への意識、外部から若者が 来ることへの抵抗感の有無を問うものとなっている。

4分析結果(アンケート結果)

(期間;H30/8/1~10/28 回答者;35名)

① 生活



原因]

鳥獣被害

鳥獣被害は以前から 問題となっていたが



近隣住民不在 からの孤独

超高齢社会化や三依地区 から離れる人が多くなった ことによる空き家の増加

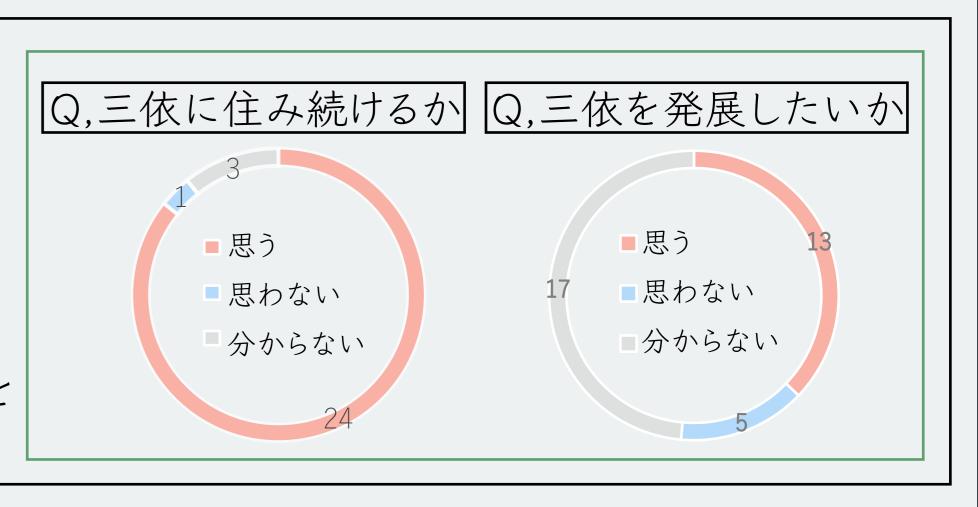


|買い物が不便|

三依地区はスーパー、 コンビニ、移動販売が無く、 生協店舗のみの利用

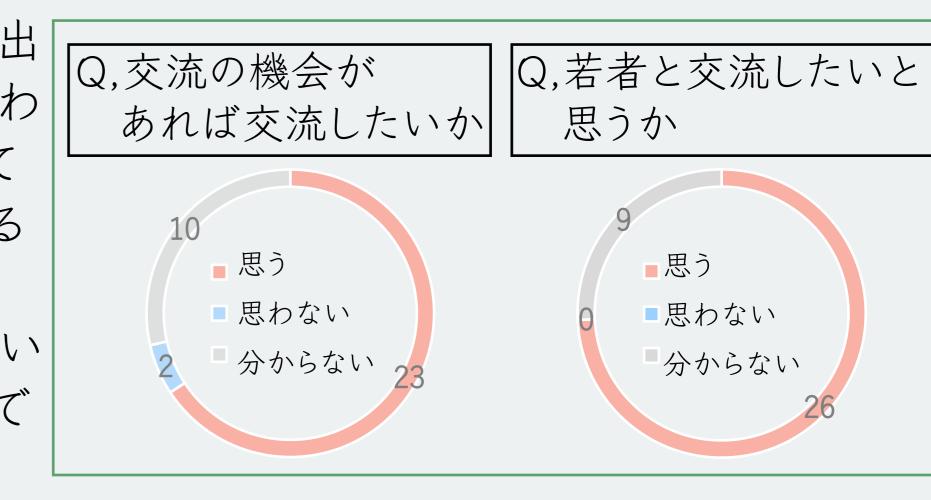


三依の今後については 活性化させるのではなく、 このままの三依の状態を 保ちたいと考えている人が 多い。これは、土地・家を 守りたい、人・土地に愛着を 持っていることからである。



③ 交 流

新しく人と集まる・外に出 るきっかけや、若い人と関わ る機会を作ることについて 前向きな意見を持っている 人が多いことが分かる。 これより、受け身な人が多い 為、きっかけづくりが重要で あることが分かる。



4 サロン活動

現在、サロン活動は行われているものの 参加者が固定していることからマンネリ化が 問題となっている。一方で、サロン活動に対し て前向きな意見を持つ人もいる。その為、マン ネリ化を打開できるようなサロン活動として、 住民の意見を取り入れたもの、参加者が増え るようなものへと変える必要がある。



Q,どんなサロン活動をしてみたいか お喋り会



スカットボール グラウンドゴルフ







5提案

アンケートで「生活する上で困っていること、不 安なこと(選択回答)」の項目は、「鳥獣被害」と 回答した人が多かった。また、「どんなサロンに 参加したいと思うか(自由回答)」という項目につ いては、「鳥獣被害対策講演会」と回答した人が 多かった。また、三依において鳥獣被害について の課題は、今回の演習開始時に提起されたこと の一つでもある。そこで、我々はこの点に着目し、 はじめの一歩として、鳥獣被害対策の講演会を 催すことを起点とし、最終的な提案とする。

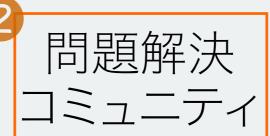
- [提案内容]

サロン活動へのきっかけづくり 現在利用されていない中三依の保育園を会場に、園内を利用した鳥獣被害対策の専門家の講演 会を開くことをきっかけに、三依の現状を受け止め、危機感を持つことに繋がる。これを危機感という

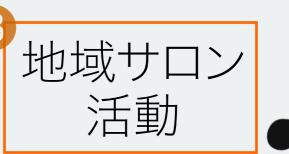
段階で留まらせず、地域の悩みを協働して解決する基盤作りを取っ掛かりとして、住民の地域コミュニ ティへの参加を促す。これを繰り返すことで、地域内交流の活性化を図ることが出来る。













危機感を持つ 参加する

共同して解決